



ほほえみ

2016年3月号

380号

曹操の入れ歯

吉川英治著の三国志の中に、英雄曹操が敵の弓に射られ落馬し歯科医に2本の前歯の入れ歯を作ってもらい「できたできた。これでもう声も漏れないし、なんでも噛める」という下りが描かれていました。三国志の時代といえ日本では卑弥呼の時代すなわち弥生時代に中国で入れ歯を作る歯科医がいたのでしょう。世界では紀元前2500年、古代エジプトのギザの遺跡から入れ歯が出土したようで、現存する中では最も古い入れ歯という事になります。日本では天文7年(1538年)に亡くなった和歌山市の願成寺(がんじょうじ)の仏姫(ほとけひめ)という尼僧が使っていた、木彫の総入れ歯が有名です。木の入れ歯としては世界で最古で、日本人の器用さが見事に作り上げた芸術品といえます。



日本最古の仏姫の木床義歯



院長 西村 吉行